

平成28年度JAQG活動報告会について

1. はじめに

JAQGは、航空宇宙業界における品質マネジメントに関する国際的な規格・ガイダンス文書を制定する組織であるIAQG (International Aerospace Quality Group) に対応した組織として、2001年当工業会 (SJAC) 内に設置された組織である。品質に関する国際統一規格の制定、認証制度の確立を図ることにより、品質改善とコスト削減を行うことを目的としている。2001年当初79社で設立したメンバー数も、現在、430社にのぼり、多くの方のご指導を受けながら活動を展開している。毎年JAQGは活動内容及び成果をJAQGメンバーに報告し、かつ、メンバー各位からのご意見 (アンケート結果等) を活動に反映させる機

会の一つとして、活動報告会を開催している。

ここでは、今年2月に開催されたJAQG活動報告会の様子を紹介する。

2. 報告会概要

航空宇宙分野の品質マネジメントシステム規格/9100規格 (汎用的な品質マネジメントの国際規格ISO9001に航空宇宙業界特有の要求事項を追加したもの) が、2016年秋IAQG 3セクター (アメリカ、アジア・太平洋、ヨーロッパ) で同時に発行され、2018年9月までの約2年間で認証移行期間としている。JAQGは、今後も9100改正版への円滑な移行のサポート、認証制度維持整備を推進してゆく。



報告会の様子 (東京会場)



報告会の様子 (名古屋会場)



特別講演 荒木グループ長 (JAXA)



特別講演風景 (質疑)

今回の報告会では、9100改正・認証移行対応以外にも、

我が国航空宇宙産業界の要求をIAQG施策に反映

品質保証制度全般の標準化の促進

品質保証に関するガイダンス・ベストプラクティスの提供

等のJAQG活動目的に対し、各ワーキンググループがどのように取り組んでいるかに焦点をあて報告した。

また、活動報告に先立ち特別講演として、JAXA 安全・信頼性推進部 安全・信頼性推進グループ 荒木 秀二 グループ長殿に「JIS Q 9100を基本要素とした新しいJAXA品質保証プログラム標準 JMR-013」と題して講演を頂いた。

3. 報告会の内容

今回の報告会の参加者数、参加企業・機関数は以下の通りである。

東京会場（2/1開催）

参加者数：145名、

参加企業・機関数：62

名古屋会場（2/3開催）

参加者数：103名、

参加企業・機関数：49

報告会での報告内容（概略）は以下の通りである。（報告順。（ ）内は報告者）

なお、報告会当日の配付資料のPDFファイル版は、JAQGメンバー専用ページに掲載されている。

詳細は以下を参照されたい。

メンバー専用ページ

→JAQG活動報告会／説明会

リンク先：

<http://www.sjac.or.jp/jaqq/member/modules/smartsection/item.php?itemid=514>

(1) JAQG活動報告（嶋貫 JAQG幹事長（富士重工業株式会社））

JAQG活動状況全般が報告された。活動総括、今後の課題は以下の通りである。

H28年度JAQG活動総括

- ・戦略検討委員会、幹事会、JRMC、各WGはJAQG活動戦略／事業計画に基づき、ほぼ計画通りに活動を行った。
- ・9100、9101規格等、認証制度に関わる規格の改定作業について各IAQGセクター歩調を合わせながら計画通りに発行した。また併せてSJAC 9068の改定も完了した。
- ・認証の移行がスムーズに行われるように移行ルールに関する情報をJAQGメンバーに提供した。
- ・数年前に国内業界で問題となった品質に関わる事案への対処としてJAQGが独自で進めていた「強固なQMS構築／展開」に関するガイダンス文書6点中、5点がIAQGのガイダンス文書として発行された。

今後の予定

- ・WG活動を継続し成果を展開する。9100改正の円滑な移行、認証制度の整備を促進していく。
- ・強固なQMS構築は、IAQGのガイダンス文書作成を支援する。
- ・要求事項の共通化につながるような規格の改善、開発等で国内のステークホルダーとの連携強化活動を継続する。
- ・活動の盛り上がりを見せているアジア・太平洋地区のリーダーとして牽引する。



嶋貫 JAQG幹事長（富士重工業株式会社）

(2) JRMC活動報告(柴田 憲志 JRMC議長(三菱重工業株式会社))

9100規格の認証制度は、9001等の他の認証制度と異なり業界が自らスキームオーナーとなって関連機関を承認、追認し、監視することによって信頼性を高める制度を構築している。JRMCは、JIS Q 9100の認証基準の整備を行うとともに、認証制度の維持・管理活動を行っており、平成28年度の主な取り組みとして以下の報告がなされた。

- ・ 認証基準（9104シリーズ規格）改正作業への参画、及びJIS Q 9100：2016年版に基づく認証移行計画作業に参画した。
- ・ 関係機関に対して実施した定期オーバーサイト結果の活用を図るとともに、OP監査員の力量向上に努めた。
- ・ JRMC会議／ワークショップを開催し、各関係機関等と情報の共有を図った。
- ・ JAQGの他のWGとの協働により、認証制度改善、及び啓蒙活動の推進に努めた。

今後の予定

- ・ 関係機関に対する監視（定期オーバーサイト）、及びIAQG他セクターへのオーバーサイトを実施する予定である。
- ・ 関係機関と協同したスムーズな認証移行

促進と課題への対応を行う。

- ・ 新OASIS運用における、IAQG OPMTへの意見具申を行う
- ・ 審査員の力量を定義している基準（SJAC9104-3）の改訂／発行と、それに付随する力量妥当性確認プロセスに対し開発段階から参画する。
- ・ 認証基準の維持・改定・Resolutionサポート等を継続してゆく。



柴田 JRMC議長（三菱重工業株式会社）

(3) 認証移行と新OASIS(前畑 貴芳 JAQG事務局(日本航空宇宙工業会))

OASIS（Online Aerospace Supplier information System）は、IAQGが開発した世界中の9100、9110、9120 QMS 審査登録データを登録し一元的に把握するウェブベースのデータベースシステムである。2016年12月にシステムが更新され、これまでの機能を維持しつつ、審査計画／審査報告書の作成／是正処置の管理／認証機関へのオーバーサイト報告機能／認証スキームの維持改善に関するフィードバック機能等を強化し運用が開始された。2017年春以降の本格的運用に備え、JAQGとして引き続きJAQGメンバーに対し適切な情報提供を行う。

(4) ワーキンググループ等の活動報告（各WG主査／各WGメンバー）

各ワーキンググループ活動の今年度のトピックスを中心に報告を実施した。

(a-1) 規格検討WG活動報告

（白井 達矢 主査（川崎重工業株式会社））

WG活動全般として、9100シリーズ規格改正活動へ参画し、国内規格改正作業を実施した。

JIS Q 9100：2016年版（*1）（2016年9月20日）発行

SJAC 9110（*2）、SJAC9120（*3）発行済

SJAC 9115（*4）は2017年3月発行予定

又、9100改正概要説明会を開催し、JIS Q 9100：2016年版の概要紹介を行った。

9100シリーズ規格以外のIAQG規格の制定／改正活動へ参画し、JAQGとしての意見を積極的にIAQGに対して提言した。IAQG規格に対応する国内規格の制定／改正作業については、国内での適用性／有用性について検討し、SJAC規格の制定／改正作業を実施中である。

規格の理解促進のため、IAQGで作成される規格の展開支援文書（FAQ等）の日本語版資料の作成・維持作業を行い、9100：2016年版関連文書2件をJAQGメンバー専用ページに掲載した。

一方、数年前に問題となった品質に関わる事案へ対処するために国内独自規格として作成したSJAC 9068（*5）を、9100：2016年版発行に対応して改正・発行した。

*1) JIS Q 9100：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項

*2) SJAC 9110：品質マネジメントシステム－航空分野の整備組織に対する要求事項

*3) SJAC 9120：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の販売業者に対する要求事項

*4) SJAC 9115：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項-納入ソフトウェア

*5) SJAC 9068：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項－強固なQMS構築のためのJIS Q 9100補足事項

又、今回は、IAQG新規作成規格の動向として、9145規格の新規制定について、以下のとおり報告が行われた。

(a-2) 規格検討WG活動報告－9145（APQP PPAP）規格概要

（服部 洋彦（三菱重工業株式会社））

9145規格は自動車業界で適用されている“APQP（Advanced Product Quality Planning／先行製品品質計画）”及び“PPAP（Production Part Approval Process／生産部品承認プロセス）”の考え方を航空、宇宙及び防衛分野の要求として規定するために開発。本規格の内容は、JIS Q 9100：2016年版「8.1項 運用の計画及び管理」の要求事項に対して参考とすることができる。本規格は、IAQGにおける検討は完了し、SJAC規格として、2017年3月までに発行を予定している。

(b) SCMH（Supply Chain Management Handbook）WG活動報告

（渡邊 靖 主査（三菱重工業株式会社））

SCMHは、IAQG戦略の重要活動の一つとなっているもので、サプライヤーのためのガイダンス文書、トレーニング資料、ベストプラクティスを集めたものであり、既存の規格を補足し「どうすれば要求事項を満たせるの



白井 規格検討WG主査
(川崎重工業株式会社)



服部 9145規格APフォーカル
(三菱重工業株式会社)

か)、また「どうすれば改善／向上を図ることができるのか」に焦点をあてた文書である。今年度は、IAQG SCM H文書7件の和訳版を作成し、JAQGメンバー専用ページに掲載した。JAQG独自に発行した強固なQMS構築／ガイダンス文書については、IAQGに提案(2014年度)した全6文書のうち、これまでに5文書をIAQG SCM H文書として発行(*6)済であり、残り1文書もIAQG SCM Hとして発行準備中であり、2017年以降の発行を予定している。

- *6) MFG Work Instructions (作業指示書の取り扱い) : 2015年9月発行
- Compliance Education (コンプライアンス教育) : 2016年9月発行
- Product Safety Awareness (製品安全の認識教育) : 2016年12月発行
- Collection and Use of Shop Floor Gemba Input and Feedback (現場からの意見吸い上げ手順) : 2016年10月
- Work Transfer Management (作業移管の管理) : 2016年10月



渡邊 SCM H WG 主査
(三菱重工業株式会社)

- (c) 特殊工程検討WG活動報告
(堀田 彰彦 主査 (川崎重工業株式会社))
Nadcap監査基準であるAC日英対訳版は、現在54アイテムをJAQGメンバー専用ページに公開した。PRI (Performance Review Institute; Nadcapの運営母体) 技術委員会に対し日本のサプライヤーの意見を提言、SAE (Society of Automotive Engineers) に対しては熱処理工程に関するAMSスペックの改定に



堀田 特殊工程検討WG主査
(川崎重工業株式会社)



前畑 コミュニケーションWG主査
(日本航空宇宙工業会)

ついて11件の意見を提言した。(内、9件の意見が改定版AMSスペックに反映された。1件は却下、1件は継続審議中)。

昨年5月末にPRI日本事務所が閉鎖されたが、4月に東京で開催予定のNadcapシンポジウムへの支援は引き続き実施する。又、PRI日本事務所の閉鎖に伴う混乱を避けるためのJAQGメンバー向けサポートとして、Nadcap概要紹介資料、及びPRIプレゼンテーション資料の和訳版をJAQGメンバー専用ページに掲載した。又、Nadcapは英語が公用語であり受審サプライヤーでの監査も英語で実施されるが、監査員が日本人であれば、監査時の質疑は日本語となり監査受審が容易になることから、要望が多いNadcap日本人監査員増員については、PRIへの支援を引き続き実施した。

(d) コミュニケーションWG活動報告

(前畑 貴芳 主査 (JAQG事務局))

JAQGウェブサイト維持・改修、JAQGニュースやウェブサイトの適宜更新し最新情報をタイムリーに更新した。又、春、秋のIAQG総会の後、年2回配信されるIAQGニュースレターの和訳版をJAQGウェブサイトで公開し、IAQG活動、及びJAQGの取り組みにつて

の紹介を行った。

昨年度のJAQG活動報告会時に実施したアンケート結果のJAQG活動へのフィードバックとして、「JIS Q 9100改正概要説明会」を東京・名古屋・神戸の3か所で開催し、延べ400名程度の出席者があり、参加者の約7割が講演内容に満足しているとの結果が得られた。

(e) スペースフォーラム活動報告

(柳川 祐輝 主査 (三菱重工業株式会社))

JAQG スペースフォーラムは、宇宙業界が一体となり、JIS Q 9100品質マネジメントシステムを展開し、日本の宇宙製品の品質の著しい改善とコスト低減を図ることを活動方針としている。

今年度の活動概要としては、国内宇宙業界の共通的な品質規格を確立し、維持・向上させていくため、平成27年度に制定された9100規格準拠のJAXA品質要求文書「JMR-013 品質プログラム標準 (基本要素JIS Q 9100)」のプロジェクト適用を支援し、日本における9100規格の適用拡大と活用の推進に努めた。

アジア・太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF-23 2016年11月 フィリピン) にJAQG スペースフォーラムとして昨年を引き



柳川 スペースフォーラム 主査
(三菱重工業株式会社)



北森 APAQGセクターリーダー
(川崎重工業株式会社)

続き参加し、アジア地域でのIAQG活動啓蒙及びプロモーション活動（新規メンバー／ステークホルダー参加促進）を実施した。

(5) IAQG / APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 活動報告 (北森 直樹 APAQGセクターリーダー (川崎重工業株式会社))

IAQG/APAQG活動へ参加する目的は、品質関連の国際会議に積極的に参加し、日本の航空宇宙産業の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルールなどに反映させることである。2016年は、IAQGシンガポール会議（2016年4月）、IAQGマイアミ会議（2016年10月）、APAQG名古屋会議（2016年3月）、APAQG珠海会議（2016年9月）会議に参加し、9100シリーズ規格改正・移行、新規規格の開発、JAQG提案ガイダンス文書のIAQG SCMHとしての発行、航空当局・防衛・宇宙等のステークホルダーとの関係強化、APAQG-OPMTスキーム構築推進等について協議した。

又、APAQG活動の拡充のため、APAQGセミナーをフィリピン マニラ市で2016年11月に開催や、韓国工業会（KAIA）と会議を行い韓国航空宇宙品質グループ（KAQG）と韓国国内での9100認証スキーム立ち上げに関するアドバイスを引き続き実施した。

4. おわりに

以上、今年度のJAQG活動報告会につき内容を紹介した。IAQGは、世界共通の航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する品質マネジメントシステム規格（9100規格）を初めとする関連規格及びSCMH等のガイドライン文書の制定に加え、“On Time, On-Quality Delivery”を効率的に達成することを目標に活動を展開しており、現在、航空宇宙の品質関連分野をリードする唯一の国際的な組織である。

今後は、JAQG発の本活動成果を国内にさらに普及させると共に、APAQG、IAQGへ積極的に提言する所存である。皆様のご指導、ご鞭撻を切に願います。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター (JAQG) 事務局 部長 前畑 貴芳〕